

本当は怖い「慢性胃炎」 慢性胃炎とピロリ菌、 胃がんの関係

医療法人 社団 信証会

江田クリニック 理事長

江田 証



■略歴

医学博士。平成14年、自治医科大学大学院医学研究科卒業。

平成14年、自治医科大学研究奨励賞受賞。

平成16年、日本消化器病学会奨励賞受賞。

平成17年、ヨーロッパ消化器病学会 Best Abstract Award 受賞。

米国消化器病学会 (AGA) 国際会員。日本消化器病学会認定専門医。

日本消化器内視鏡学会認定内視鏡専門医。

日本内科学会認定医。日本ヘリコバクター (ピロリ菌) 学会会員。

自治医科大学消化器内科助手、宇都宮社会保険病院内科医長、東京虎の門病院内科レジデント、

下都賀総合病院臨床指導医を経て、愛する故郷、下都賀郡岩舟町に 江田クリニックを開院。

て、出発する年齢のようです。

人生を成熟させ、まとめ上げていく「人生の完成力」の中で、非常に重要な要素に、健康があります。健康を武器に、人生という交響曲のクライマックスに向けて盛り上がりを見せていきたいものです。

●胃がんの数は増えている

成人の死因の第一位はがんであり、しかもその過半数は胃・大腸といった消化器のがんで占められています。

特に日本人には胃がんが多いのが特徴です。胃がんの死亡率は下がってきています。しかし、胃がんになる人の数は増えて

いるのです。これは、胃がんになる頻度が高い高齢者の数が増えているためです。

つまり、胃がんになる人は増加しているが、治る人が多いため、死亡する人がそれほど増加していません。

これは医学の進歩の成果です。胃がん

は、胃カメラ(胃内視鏡)により早期に発見されれば、ほぼ確実に治せる病気となりました。恐れず信頼して、現代医学の進歩の恩恵を享受しましょう。

●慢性胃炎を知っていますか？

内視鏡検査にて「慢性胃炎」や「萎縮性胃炎」と言われた方は多いと思います。

しかし、これが一体どういう状態なのか、なかなか患者さんに知られていません。

●慢性胃炎が進むと、胃が荒廃してしまふ

「慢性胃炎→萎縮性胃炎→腸上皮化生→胃がん」という筋筋

「慢性胃炎」とは、胃の粘膜に白血球が集まってきて、常にじわじわとした慢性的な炎症を起こしている状態を言います。慢性的な炎症が何年間も続き、胃の粘膜の障害が進むと、胃酸を出す胃腺というのが縮小・萎縮して、胃の粘膜がうすくべ

●人生の「完成力」を発揮するために
孔子の論語に「五十にして天命を知る。六十にして耳順ふ。七十にして心の欲する所に従へども、矩を踰えず」とあります。

「六十歳を超えると何を聞いても素直に受け入れることができるようになった。七十歳になると、自分がしたいと思う言動をしても、人の道を踏み外すことがなくなつた」という意味です。

六十歳は、人生の意味ある完成に向け

らべらになってしまいます。

すなわち、慢性胃炎が長く続いた結果として、胃の粘膜が萎縮した状態を「萎縮性胃炎」というわけです。

内視鏡で観察すると、正常な胃はきれいなピンク色をしています。それに対して、萎縮性胃炎になると、胃は色あせて褐色となり、粘膜の下にある血管が透けて見えるまでになってきます。

●慢性胃炎の原因とは？ピロリ菌の発見

最近までの研究で、この原因のほとんどがピロリ菌という細菌によって引き起こされていることが分かっています。

幼少期にピロリ菌に感染した胃は、常にじわじわとした炎症があるために、次第にいたんでゆき、三十歳位から萎縮性胃炎に進行します。

さらに、萎縮が進行した胃には、四十歳くらいから、大腸や小腸の粘膜に似た「腸の粘膜」がデコボコと生えて来ます。これを「腸上皮化生」といいます。この腸上皮化生粘膜を背景に、胃がんが発生してくると言われています。

●胃がんまでの階段とは？

まとめますと、胃がんになるには多くの場合、「慢性胃炎→萎縮性胃炎→腸上皮化生→胃がん」という階段があるのです。

この中で、慢性胃炎は、「前癌病変」がんになりやすい状態として考えられており、萎縮の範囲の広がり・進行度に応じ

て、胃がん発生率が高くなることが統計上わかっているのです。

すなわち、慢性胃炎の範囲がひどいほど、胃がんになりやすいのです。

私自身も腸上皮化生の段階の粘膜にさまざまな遺伝子異常が存在することをDNAチップを用いて見だし、米国消化器病学会で発表して参りました。

ほとんどの胃がんの原因は、ピロリ菌により引き起こされた胃の慢性的な炎症なのです。六十歳以上の日本人はこれに感染している人が多いので日本人には胃がんが多いのです。

●胃がんで死なないために

したがって、慢性胃炎や腸上皮化生がひどくなった方は胃がんが出てくる可能性が高いため、消化器専門医による、年一回の胃カメラを欠かさすべきではありません。胃がんが出来ても、早期に見つかればお腹を切らなくても、胃カメラで完全に治療が出来るため、なるべく早く発見して完治することが大切なのです。

●経鼻内視鏡の誕生

現在は、鼻から入れる、細くやわらかい経鼻内視鏡というものがあり、楽に検査を受けることができますようになりました。

予防・早期発見に努め、進行胃がんで苦しまれる方を一人でも減らしていきましょう。今回は大腸がんについて予定しています。



江田クリニック

■お問い合わせ

〒329-4314 栃木県下都賀郡岩舟町小野寺2575-7

医療法人 社団 信証会 江田クリニック

TEL.0282-57-1234 <http://www.edaclinic.com/>

先着100名の方に特別健康コラムを無料進呈いたします。

下記メールアドレスにご住所・お名前をお書きになり送信してください。
infoedaclinic@yahoo.co.jp